

縁の下の力持のような役割をお引受けになられて各方面の力が結集・統一されるように導びかれて、ついにその実現を果されたのであった。終戦後は教育刷新委員会委員として新しい幼稚園制度の樹立に献身されたのであるが、これも決して平坦な路ではなかったのであって、たまたま私は文部省に席を持っていたので、先生は会議の前後によく立寄られて会議における御腐心の有様を物語って下されたものである。この時、外に柔らかく、しかしいささかも節を屈することなく、辛棒強く、一步一步と御自分の信念の向うところに進まれる先生の真骨頂をはっきりと理解いたしましたのである。かくて或はアメリカ側の主張、或は保育所一本槍で進んで来る側の主張に注意深く対処されながら、現在のように幼稚園を学校制度の一環に組入れてその地位の確立に成功されたのである。しかも現制度が保育所と幼稚園がいつでも一元化出来るような含みのあるものに仕組まれているところに、先生の遠い慮りがあるかと云える。先生はここまで運ばれた筋道が後に続く人々によって引継がれて行くことを期待されつつ永眠されたものと私は堅く信じている。

(一ツ橋大学教授)

×

×

×

倉橋先生を憶う

日本のフレーベル

竹村

一

日本の幼稚園教育の先輩であった豊田英雄先生、氏原銀先生、膳だけ先生、宇式かん先生近くは望月くに先生方々を失って何だか淋しさを感じている矢先、日本のフレーベルと申上たい倉橋先生を亡くした事は何と云っても寂寥の思いがひしひしと胸にしみ込んで来る。

私が倉橋先生を存じ上げたのは、私がまだ大阪医科大学の学生で、殆ど毎週江戸堀幼稚園の膳先生に師事していろいろとお教えをうけていた時代である。考えてみるともう四十年の昔になる。大阪、神戸と先生の講習の開かれる度毎に沢山の保母さんの中に交って聴講して幾枚かの終了証書もいただいた事であつた。特に私の永久に感激の追憶は先生が、私が医科を卒業すれば、東京高師へもう一度入学して三年勉強

し、自分の協力者となり、後継者になってくれないかと仰せられたことである。私は当時から今もつづけてやっています健康教育を生涯の仕事と決意していた事だし、又家庭的にも更に三年の勉学はとも母が許してくれない事情をお話し申上げて御許しを乞うた事であった。然し幼稚園教育は私の最も好きな事であるし、更に先生のその御厚志のほんの少しでもかなえたいと思いつつ今日まで引つぎ細々乍ら幼稚園教育に関係をもっている様なわけである。私がランパス女学院の保姆養成科に教鞭をとる様になった時も先生は、大麥よるこんで下さった事であった。戦前上京すると時折先生におめにかかりに行っていたが戦後全く御無沙汰をしていた。昨年徳島市で及川先生におめにかかった時、私の現況を御伝え願ひ是非一度おめにかかりに行きますと申上げてどうとう御生前にお会いすることが出来なかつた事が残念で仕方がない。今後は後輩の諸君に自分の後をゆずりたいと思うほどの熱意がはたして自分にあるか、斯道の将来に向ってどうだと自問自答してみると恥かしい思いがする。私は先生の四十年前に下さったあの御厚意、御慈愛、斯道への深遠な愛情を身に秘めて残る生涯を先生の後を次ぐことの出来なかつた私、又そんな偉い人間には到底なれなかつた私ではあるが、たとえ細々乍らも日本の幼稚園教育に尽し先生の志にむくいたいと決意している。

もう一つ先生について忘れることの出来ない事は、日本の幼稚園教育第一期とても云う恩物中心の教育を打破してフレールベルの思想にかえれと叫ばれた事である。先生の美しいお言葉の講演、名句名言の講義、日本の保姆諸君は神様の如くにその講義を傾聴敬仰した大正末期の頃、先生が之をよんでごらんと云って紹介して下さった本は「キルパトリックのフレールベルの原理」というのであった。

当時も今も私は語学の力が貧弱な為に処々難解で困ったことであった。そのことをある講習会の休憩時に先生にお話したところが、先生は、あれはむずかしいよ、然し根気よくゆっくりと味って読んでごらんと仰せられた。いまも先生の御人格を考えてみるとあの温容せまらない中に、孜孜としてやまざる根気強い性格が思い出される。先生は名利や地位にあくせくせず、世俗にこびず、人気取りの様なことは一切なさらず、自分から長たらしとする様な野心も毛頭もたれず、日も夜も日本の幼稚園教育に、母と子どもの教育の為にこのみ専念されたという事は幼児教育にたずさわる私達には忘れてならない先生の美しい御人格である。あれほどの先生として著書の少ない事も、不思議な位である。多くの人々が學位をと云々しても先生は我関せずといった態度、あれこれ考えるとただ先生はひた向きに幼児教育に眞実一路を歩んで来られた事が考えられる。

今や先生は亡い。先生の後につづく日本の幼児教育にたずさわる私達は、ただひた向きにこども——日本のこどもの為に精魂を打込んで進みたいと思う。

先生が残された日本の幼児教育の礎石の上に、美しい真に日本のこども、の健康と幸福が打建てられる様に決意したい。

日本のフレーベル、倉橋先生。我等の恩師倉橋先生、どうかいつまでもいつまでも、天の彼方から私達を見守って、私達の行く途をお教え下さり御指図下さらんことをひたすらに祈りつつ筆をおくこととする。

(一九五五、五、一三・神戸大学教授)

倉橋先生を偲びて

内 匠 ち ゑ

才をもって、突然御逝去遊ばされたことを知りましたのは、翌朝の新聞でございました。あまりのことに私はしばし呆然としてしまいました。

思えば私達保育者の大先輩、望月クニ先生を八十八才の御高齢ではありましたが、二月四日に失い、ここに又我が国幼児教育の大指導者でありその第一人者であられた倉橋先生の御逝去をみましたことは、全国保育界にとりましてもその損失は実に大きなものであります。

先生はお茶の水女子大附属幼稚園主事としての多忙の御身の傍ら、各地の講習会、講演会に御苦勞を頂きました。御講演を拝聴する私達は先生の巧みなお話しぶりに暑さも忘れ眠気もふっとんで聞き入ったことは今もなお目前に浮んで参ります。誰かの話に、あんなお偉い先生でもちゃんと原稿をお書きになってその上、このところ、で、い、れ、る……等と「注意書き」が入れてありましたとか——何時も聴衆をうっとりさせられた印象的なお話ぶりとも思い合わせ、先生が如何に御熱心にお話下さったか、そのお氣持が偲ばれて、とても有難く、うれしく思うのでございます。

嗚呼、今は亡き倉橋先生ノ 先生が、去る四月二十一日奇しくも幼稚園の創始者、フレーベルの誕生日に、御年七十二

兵庫県へおいで下さったことも数回ありました。最近先生の御元氣な間に一度御迎えたいと話合っていましたのにそれも叶わぬことになってしまいました。大阪へは度々来られましたのでその度毎に参上し先生のお話を拝聴するのを樂